

平成26年度 学校自己評価最終結果の報告と改善について

菅平小・中学校では、学校目標「郷土を拓く大地の教育」のもと、日々の教育活動を行って参りました。この菅平小・中学校を更により良いものにするため、本年度も1学期（前期）、3学期（後期）に保護者の皆様にアンケートを実施いたしました。ご協力ありがとうございました。また、児童・生徒、教職員も同様にアンケートを実施し、その結果から以下のように考察いたしました。

このアンケートから示唆されたことを真摯に受け止め、日ごろの教育活動を振り返るとともに、来年度の方向性を示しましたのでみなさまにお知らせいたします。

考察の方法

- ①全体の傾向をつかむために、アンケートの「Aそう思う（かなりある）」「Bややそう思う（時々ある）」の2つの合計を<プラス評価>、「Cややそうではない（あまりない）」「Dそうではない（全くない）」の2つの合計を<マイナス評価>としてまとめました。そのため、AからB（またはその逆）や、CからD（およびその逆）の細かい変化については、考察に含まれていません。
- ②「評価項目」の中で「評価の観点」が2項目あるものについては、それらの平均値を求め、各「評価項目」として考察を行いました。
- ③考察の中では、「小学生（児童）」、「小学校保護者」、「小学校教職員」、「中学生」、「中学校保護者」、「中学校教職員」と、6つの立場で表記しましたが、前後の記述で理解いただける部分では簡略化しています。

【教育活動】の考察

○学習活動

学習活動では、小学校保護者・小学校教職員ともに<わかりやすい授業>への評価が下がっています。これらは、スキー活動に重点が置かれ、かなりの時間が割かれていることへの不安（保護者）や反省（教職員）と考えられます。一方で、「スキー活動の時間があっても授業の質は落としていない。」と考えている小学校職員もいますが、遠征等で欠課となる児童への配慮までは十分ではないかも知れません。中学校教職員も<わかりやすい授業>という点では反省として表れています。しかし、中学校保護者からは前期からの変化は読み取れません。このことは、スキー活動については小学校と大きな違いがないにも関わらず、各学年で進級への準備や進路決定に向けての取り組みを認めて頂いていることと思われま

す。小中連携では、小学校教職員の評価が下降しています。このことは、県中（含む全中）スキー大会（中学校）や校内スキー大会（小学校）の関係で、小・中それぞれでの活動が中心であったことや、中学校から小学校への乗り入れ授業が十分に機能しなくなったことの表れであると考えられます。また、この期間での小・中教職員間の情報交換の時間が作りにくくなってきていることは間違いありません。

○生徒指導

小学校の保護者・児童・教職員ともに前期と大きな変化は見られません。一方、中学校では教職員の評価には変化はないものの中学生は辛口の評価になっています。これは多くの時間と体力を費やしているスキー活動に対して、「もっと頑張りを認めてほしい」、「もっと応援してほしい」という気持ちがあるのではないかと察します。セクションが違うと、どうしても互いの動きや様子が見え難くなってしまいます。そのため、教職員に対して、情報収集・発信をもっと活発に行なってほしいということかも知れません。クラスメイトが大会等で不在であっても、その存在が感じられれば、係活動や生徒会活動、日常の清掃活動なども気持ちよく行えると思います。<互いの協力>という点で評価を下げていることから方策を求められるところかと思

○キャリア教育

小学生・中学生ともにこの項目は変化が見られません。しかし、教職員は小学校・中学校ともに評価を

下げました。後期のスキー活動においても、キャリア教育につながる活動があると考えられます。(小学校の長寿会との交流、中学校の他中学校とのスキー交流など。) この活動を、児童・生徒は十分に実感しているが教職員が実感していない部分かも知れません。確かにスキーに関しては指導をコーチを含む外部の方々にお問い合わせざるを得ません。しかし、「健康面・安全面の配慮」、「交流をしていく中での人間関係への配慮」など、教職員として担うべき役割は別なところにあり、これらの活動では責務を果たしてきていると考えられます。

一方で、保護者の意見は小学校と中学校で大きく異なります。ここには、“菅平学校”からの巢立ちを目前に控えている子ども(中学生)の保護者には、この時期にこそ<菅平らしさ・菅平の良さ>があり、それらを充足させるに足るカリキュラム(これもおそらくスキー活動と思われる)となっていると感じていらっしゃるのではと思います。教職員はそれらを真摯に受け止めて日々の教育活動に取り組むべきと思われます。

【教育活動】 来年度の方向について

◇小学校

この後期に限らず、一年間を見通した学校生活の中でどのような取組をすべきか、改めて検討したいと考えます。学習面に不安を残したままスキー活動に移るのではなく、春から秋までの期間で確かな学習力を身に付け、自信をもって冬を迎えたいと思います。そのためにも教職員の研修を大切に、スキー活動と教科授業のバランスを考えた教科指導の充実を図りたいと思います。また、中学校の教科担任とも、情報交換の時間を設け、通年で連絡を密にしていこうためにも、中学校から小学校への乗り入れは、小学校が主導でお願いしていこうと思います。

◇中学校

昨年度の年間の反省から、「学習習慣の形成が重要である」と考え、今年度の学習活動を進めてきました。学習習慣は通常の授業もさることながら、家庭学習という重要な学習場面と考えます。そのため、多くの教科において課題の工夫を行ったり、時に宿題という形で行ったりして見ましたが、十分な学習習慣の定着に至っていません。このまま、中学校に入学してから身に付けさせるのではなく、小学校とも相談し、『日常的な学習習慣の形成』を行っていこうと考えています。

◇小・中学校

本校は『小中一貫校』ではないため、小学校と中学校の教育課程は独立していることが本来の姿ではあるものの、『小中併設校』の強みを生かし、行事の合同実施だけでなく、総合的な学習の時間を生かした、共同参画の学習(教科学習は不可)などを模索していくことは可能と考えます。そうすることによって、年齢差を越えた協力や思いやりの力が育まれると期待しています。

また、学力面での社会的要求も無視できません。そのため、学力向上のベースとなる「学習習慣の定着」をめざして、小・中共通した「学習の約束」を再検討し、身に付けさせる方策も提案して参ります。

さらに、本校のキャリア教育はスキー活動と切っても切り離せないと思います。しかし、「校技スキー」といった場合の捉え方が、保護者・児童・生徒・教職員・地域(コーチ)のそれぞれの立場で異なっているため、共通理解されていないことがあります。そのことを含め、<行事と学習のバランス>について、学校説明会、学級懇談会などで周知していきたいと考えます。

【学校運営】の考察

○学校作りへの参加

小・中学校の教職員ともに<教職員から保護者への関わり>では評価を下げています。これは、前期に比べ学校行事が少ないため、そのような判断となったと思われます。一方で、小・中学校の保護者はともに<保護者から教職員への関わり>の評価は上がっています。ここから、教職員が感じているほど、家庭との距離は離れていないのではないかと推察します。

【学校運営】 来年度の方向について

◇小学校

学校では児童への日ごろの声がけをこれまで以上に大切に、児童を褒める場面を増やしていけたらと思います。そのような姿をお伝えするとともに、学級懇談会などの機会を利用し、親子の対話の重要性を皆で確認することを通して、親子の対話がより一層深まることを期待します。

◇中学校

学校づくりだけに止まらず様々な面において、教職員から保護者へのPR不足を反省しました。生徒の様子だけでなく、学校の現状、見通しをもった学級経営の方向性など、学級通信、学級懇談会などを利用した<PR活動>の質・量を増やして、それが日常的な活動となるように考えて行きます。

◇小・中共通

2学期から「オクレンジャー」を導入しました。運用についてはまだまだ模索の段階ではありますが、県中や全中の結果を速報という形でお伝えすることができました。保護者の方からは、「菅平の子たちの活躍をいち早く知ることができた。」、「その生徒の保護者に会った時に声をかけやすい。」等の高評価をいただきました。このような形で今後も活用していくと同時に、可能な限り学校関係者にも通知する手立てとして活用して参りたいと思います。

【その他】の考察

○楽しい学校生活

常に高い評価で推移しています。小・中教職員もこの点については自信をもって取り組んでいるつもりですが、保護者と児童・生徒を比べてみると、小学校と中学校では若干ではありますが差異があります。

小学校保護者は、「うちの子は楽しく学校に通っている」と感じていても、そうでもない児童（実数で4名）がいたり、反対に中学校は、生徒は「それなりに学校生活は楽しい」と感じているのに、保護者（実数で2名）は「そうでもないのでは？」と感じています。

【その他】 来年度の方向について

◇小学校

児童が安心して学校生活を送れる学級づくりや学校づくりを進めて参ります。職員会では、指導力向上の研修はもちろん、児童理解の時間を位置づけ、互いに良いところを見つけ合い、語り合う時間を今一層確保し、児童が「学校は楽しい」と感じられる学校づくりに励みたいと思います。

◇中学校

中学校が提供できる「楽しさ」とは何か。生徒個々に違いがあり定義するのは難しいのですが、「自分が夢中になるためのスイッチを増やすこと」と考え、学習・運動・係活動・生徒会活動などを通して、充実感・達成感を味わってもらおうと思います。そして、社会に出ていく前に必要な素地を伸ばし、伸びた実感があつた時に「楽しい」と感じる生徒の育成を目指します。

◇小・中共通

「楽しく学校に通って欲しい」というのは親ならば誰もが思うことです。そのためにも、前項【学校運営】にも繋がることですが、子どもと保護者の意識の距離感を縮めるために、子どもの姿や思いが家庭にも伝わる工夫をして行きます。

また、今回も同時にとりました<体罰>に関するアンケートでも、全員（未記入を除く）から「なかった」という結果を頂きました。今後も職員一同、体罰の撲滅に心がけて参ります。また、前期では暴言といかないまでも、言葉遣いに対するご指摘を頂きました。職員間でも批正し合うことを通して改善を試みて参りました。今回、「当初は心配したが、気にならなくなった」というご意見を頂きました。ありがとうございました。来年度、新たな教職員が仲間に加わる際にもこれらのことを伝え、より一層気をつけて参ります。

問い合わせ先

菅平小・中学校 学校評価委員会

(担当) 松井康浩

TEL 74-2014 有線 2131